

令和 6 年度「子どもたちの豊かな学校生活のために

～いじめ解消・暴力根絶旬間（第 2 回）～」の取組結果について

取組の目的

- 児童・生徒自身がいじめに気付き、いじめを自分のこととして考え、行動することを通して、自らいじめを解消する力を身に付けること。
- 児童・生徒が主体的な取組を図れるよう各学校で創意工夫を図るとともに、いじめの実態を把握するためのアンケートを必ず実施し、いじめの未然防止と早期解決に向けた取組を強化し、地域・保護者への啓発を図ること。

実施期間

第 1 回

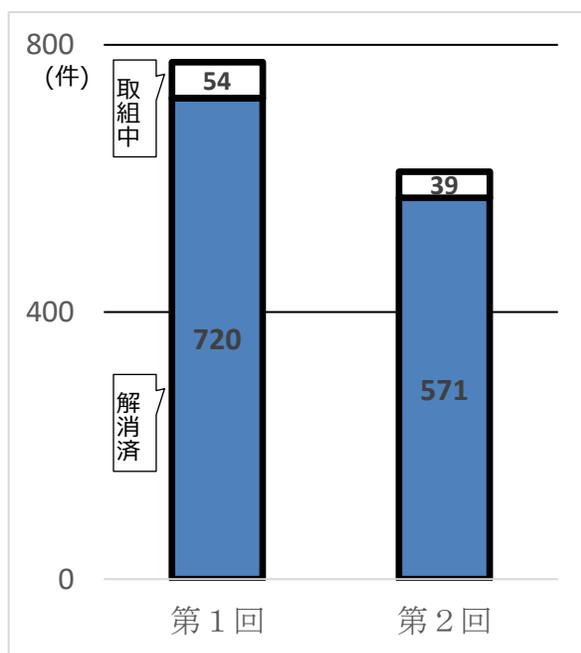
令和 6 年 6 月中で、適切な時期に 1 週間から 10 日間程度

第 2 回

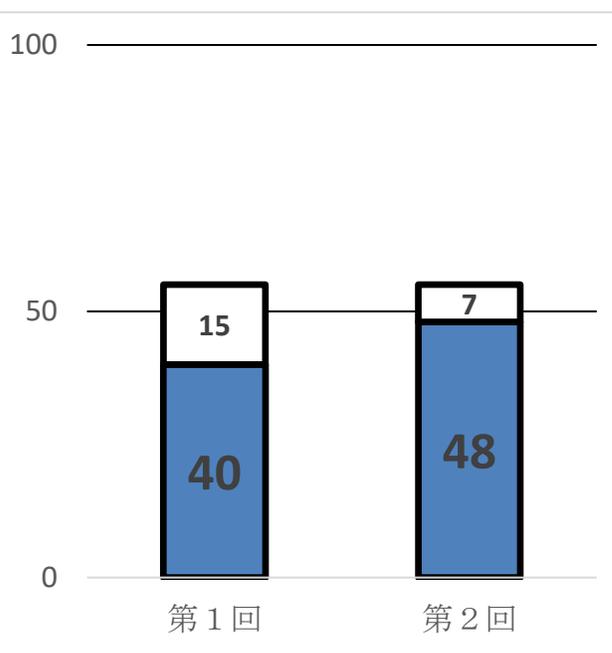
令和 6 年 11 月中で、適切な時期に 1 週間から 10 日間程度

1. 調査期間におけるいじめの認知件数

小学校



中学校

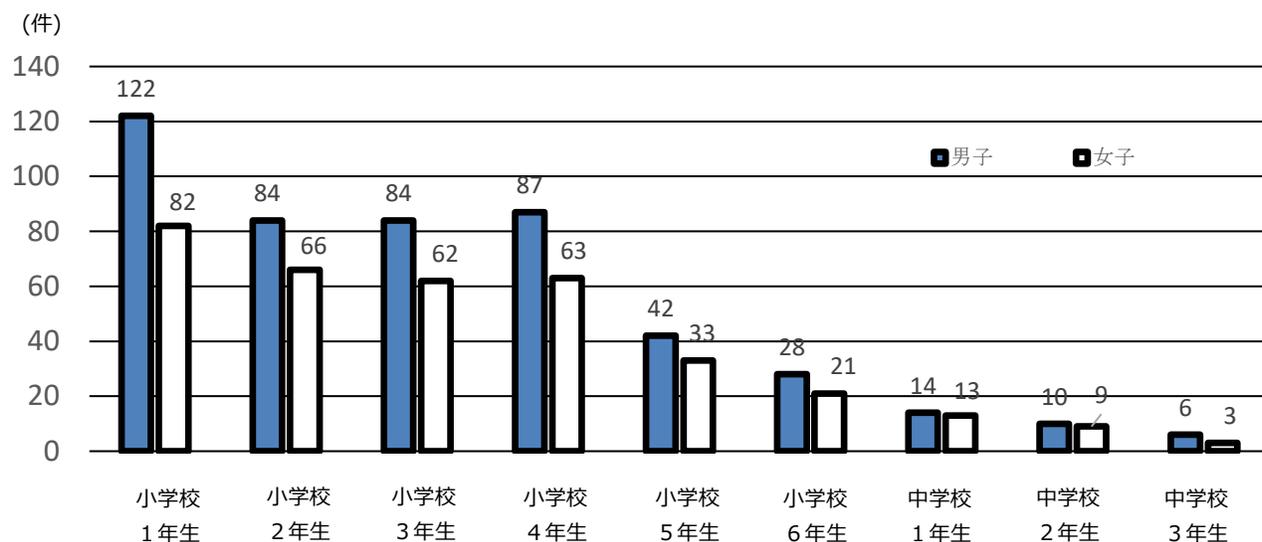


<「いじめの認知件数」について>

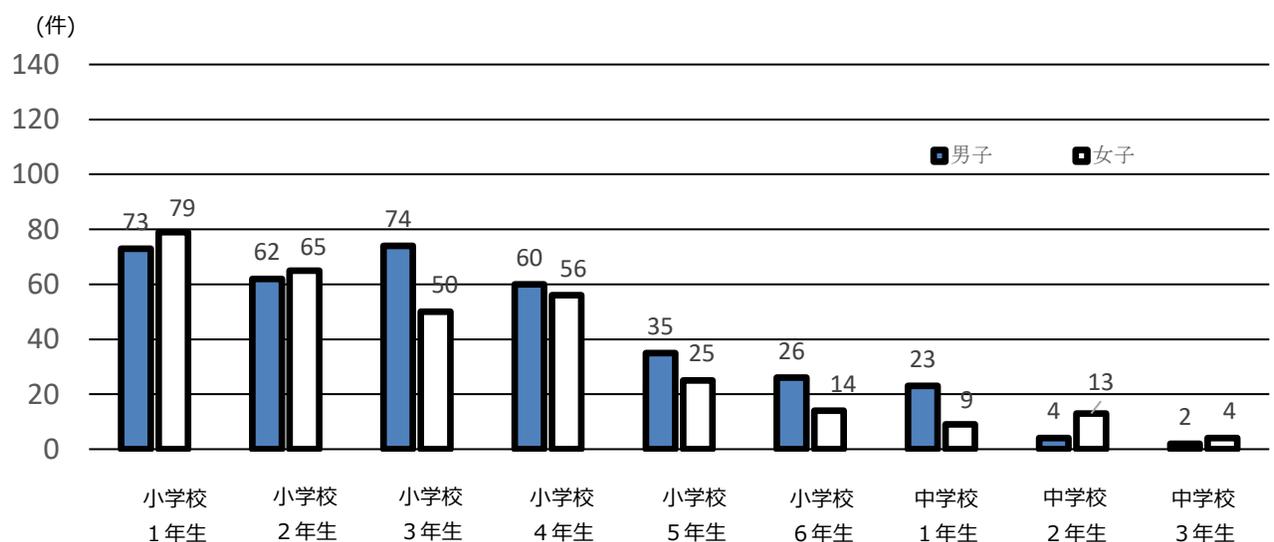
- 子ども 1000 人当たりで小学校 71.0 件（前回 90.4 件）、中学校 14.5 件（前回 14.6 件）だった。
- 小学校では 2 回とも解消率が 90% 以上である。中学校でも解消率が高くなり、72.7% から 87.3% に上昇した。各学級でのいじめに対する指導や、子どもたちの関係性の構築が進んできていると考えられる。
- 小学校の学校間における認知件数の開きが課題だったが、最大と最小の差が前回 203 に対し、今回は 94 となっており、是正されてきている。

2. 調査期間におけるいじめの認知件数の学年別、男女別内訳

<第1回>



<第2回>



<「いじめの認知件数 学年別、男女別」について>

- 前回・今回ともに概ね学年が上がるにつれて減少する傾向がある。具体的には、小1～小4で件数が多く、小5～中1で減っていき、中2～中3は最も少なくなっている。小1～小4で多いのは、学校生活への慣れ、友達との関わり合いの増加、「いじめである」という認知機能の発達によるものと考えられる。
- 前回に比べ、男子より女子の認知件数が多くなった学年がある（小1、小2、中2、中3）。特に中学2年生は、女子が男子の3倍以上となっている。

3. 調査期間におけるいじめの発見のきっかけ

	小学校		中学校	
	第1回(件)	第2回(件)	第1回(件)	第2回(件)
ア、学級担任	63	36	0	2
イ、学級担任以外の教職員	1	3	1	1
ウ、養護教諭	0	0	0	0
エ、スクールカウンセラー等の相談員	1	0	0	0
オ、今回のアンケート調査 (A)	520	468	43	47
カ、本人からの訴え	155	58	5	3
キ、本人の保護者からの訴え	16	22	6	2
ク、本人を除く児童・生徒からの情報	14	8	0	0
ケ、本人以外の保護者からの情報	4	2	0	0
コ、地域の住民からの情報	0	0	0	0
サ、学校以外の関係機関からの情報	0	0	0	0
シ、その他（匿名の投書など）	0	0	0	0

4. (A) 今回のアンケートにより発見したいじめの態様 * 複数回答可

	小学校		中学校	
	第1回(件)	第2回(件)	第1回(件)	第2回(件)
冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	284	271	29	28
仲間はずれ、集団による無視をされる。	65	58	1	9
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	162	135	8	1
ひどくぶつかられたりたたかれたり、蹴られたりする。	0	1	0	2
金品をたかられる。	0	0	0	0
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	12	12	0	2
嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	42	37	2	1
パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	0	1	4	4
その他	33	24	2	2

5. 今回のアンケート以外で発見したいじめの態様 * 複数回答可

	小学校		中学校	
	第1回(件)	第2回(件)	第1回(件)	第2回(件)
冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	209	78	10	9
仲間はずれ、集団による無視をされる。	14	12	1	1
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	76	37	3	1
ひどくぶつかられたりたたかれたり、蹴られたりする。	0	1	0	1
金品をたかられる。	0	0	0	0
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	5	4	0	4
嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	14	4	1	1
パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	0	1	9	1
その他	5	5	0	1

<「いじめ発見のきっかけ」について>

- 小学校、中学校ともに「今回のアンケート調査」によるものが最も多い。
- 小学校は、認知件数の減少に反して「本人の保護者からの訴え」による件数が16件から22件に増加した。
- 中学校は、「学級担任」による発見が0件から2件に増加した。

<「いじめの態様」について>

- 前回同様、アンケートによる発見・アンケート以外による発見のいずれにおいても「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が最も多い。
- 小学校は、「パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる」が0件から2件に増加した。
- 中学校は、「金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする」が0件から6件に増加した。